

河内川ダム建設の無駄と無謀 その⑨

民主党政権の「できるだけダムにたよらない治水」政策を
骨抜きにした国交省河川局官僚と福井県河川課の詐欺的手法（7）

（小浜市） 松本 浩

「原発銀座」とも呼ばれる福井県の嶺南地方（若狭）においては、県が施工する原発絡みの土木事業（国庫補助）に不正と自然破壊が特に著しいという特徴が見られる。

国、県、関西電力が小浜市に立地を計画した原子力発電所や使用済み核燃料の中間貯蔵施設の用水確保の目的で建設が強行さ

れた河内川ダム工事も例外ではない。

河内川ダム事業においては、「調査設計費（測量及び試験費）」に係る無駄、無用、架空の業務委託が顕著であり、その不正支出には公金が湯水のように注がれているが、まずは、その財源の異常な膨張の実態を検証する。

（予算項目）	昭和62年（1987）	平成29年（2017）	（増額%）
・ダム本体工事	136億1100万円	170億0000万円	124.8
・管理設備、他	11億4000万円	22億8900万円	200.7
・調査及び設計	9億8000万円	57億7200万円	588.9
・用地及び補償	26億7000万円	58億7700万円	220.1
・付替道路工事	42億5000万円	97億2800万円	228.8
・事務費、他	7億4900万円	8億3400万円	111.3
合計	234億円	415億円	177.3

福井県の国庫補助金（55%）交付申請書に添付された「年度別内訳及び実施内容」から、「調査及び設計費」の事業予算と支出実績の推移を概観すると（右頁図参照）。

- ① 1989年締結（福井県・小浜市・上中町）の基本協定書（事業費234億円、1995年度完成予定）時点で、調査設計費が14億1900万円に増額された。
- ② 1996年3月改定の基本協定書（事業費234億円、2001年度完成予定）時点で、調査設計費が26億8984万円に増額された。
- ③ 1998年度に調査設計費の支出済額が25億9536万円（予算の96%超）に達すると、翌年度、調査設計費予算は32億8984

万円に増額された。

- ④ 2002年3月改定の基本協定書（事業費415億円、2011年度完成予定）時点で、支出済額が31億1069万円（予算の94%超）に達すると、同年度調査設計費は42億8700万円に増額された。
- ⑤ 国土交通省が河内川ダムの検証を要請した2010年の時点で、調査設計費の予算は42億8700万円であったが、同年度の支出済額は42億8019万円、実に予算の99.8%に達していた。
- ⑥ 国土交通省が河内川ダムの継続を承認した2011年の時点で、調査設計費の予算は52億8700万円へと10億円増額された。

⑦ 2015 年度に調査設計費の事業予算は、57 億 7200 万円へと更に 4 億 8500 万円増額され、2017 年度当初の支出予定額は 55 億 1787 万円に達している。

葉がある。しかし、ここでは「うなぎ(無駄な業務)」が「天井(予算)」に届きそうになるや直ちに「天井」が引き上げられる。

官僚天下りの業者ら『税金泥棒』による飽食の宴が繰り広げられている。

「うなぎ登り」、「天井知らず」という言

(次号に続く)

